

## 活水論文集 看護学部編 第6集の発刊に寄せて

活水女子大学看護学部長 野口 静子

元号が平成から令和になった記念すべき2019年に活水学院は、創立140周年、看護学部は平成21(2009)年開設以来11年目を迎えました。卒業生が各地で保健師、助産師、看護師、養護教諭として順調に成長し活躍している様子を耳にするようになり、嬉しくまた心強く思います。

平成元(1989)年の看護系大学は11校から令和元年には272校と増加の一途をたどっています。大学で教育される看護師の1学年定員は、平成元年には539人から令和元年には24,525人となり、看護師の全教育課程の1学年定員総数に占める大学卒業の看護師は、平成元年度は1%だったものが約35%を占めるようになりました。今後もこの割合は大きくなっていくことが予想され、当看護学部にとっては看護学教育の質の確保と魅力をアピールしていくことが重要な課題です。さらに学生が卒業後に従事する医療の現場では、高齢化が急速に進展し、患者のより多様な生活状況や複雑な背景を持つ患者の急増に対応するために、集中的な入院医療と生活を支える在宅医療への取り組みが進められています。病態を的確に判断し、病状に応じた適切な看護と退院後の個別性を踏まえてその人らしい生活を支援できるよう、すべての看護師に高い能力が求められています。多様性・複雑性に対応した看護を想像できる教育の強化が不可欠であるとして、「保健師助産師、看護師学校養成所指定規則」が改正され2022年度から適用予定です。

看護学教育の質を確保するためには、日頃の看護教育の実践活動や専門領域の探求と研鑽が求められ、日々の研究的取り組みが重要であると考えます。

本学部の先生方は既に、地域の特性を踏まえ関係者や自治体との連携、協力のもと看護学演習では、地域の老人クラブの方々の模擬患者導入、地域の高齢者への健康講座、地域の災害訓練への参加、離島病院研修、地域特性を踏まえた研究テーマへの組みなどを行っています。専門分野においては、臨床判断能力を育成するためのシミュレーション教育を導入するなど教育方法の工夫に取り組んでいます。さらに効果的な臨床実習ができるよう、実習施設である長崎医療センターとのユニフィケーション事業として、教員が各病棟の研究支援、臨床研修を行い実習施設との関係の強化に努めています。

今後も継続してこれらの教育実践や研究の成果を論文にまとめ刊行することが、看護教育の質を確保し、本学部の魅力のアピールにつながると期待しています。本書が多くの皆様にご拝読いただきご意見・ご感想を頂戴したいと思います。

第6号を発刊するにあたり、投稿していただいた先生方には、日常の臨床実習指導や授業そして学生指導などのお忙しい中での研究への取り組みに敬意を表するとともに、図書学術委員、査読委員、編集委員の先生方のご尽力に感謝いたします。